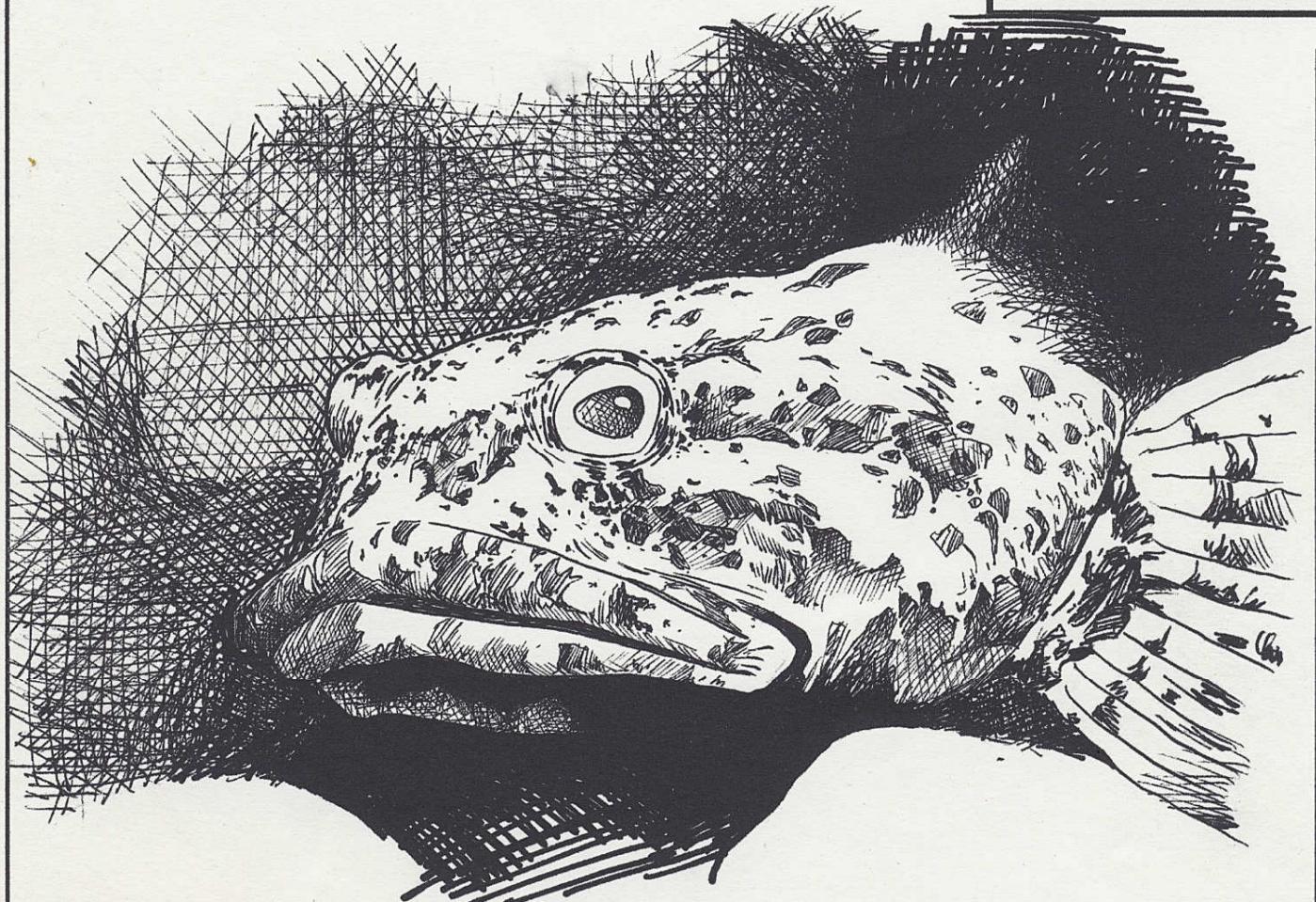
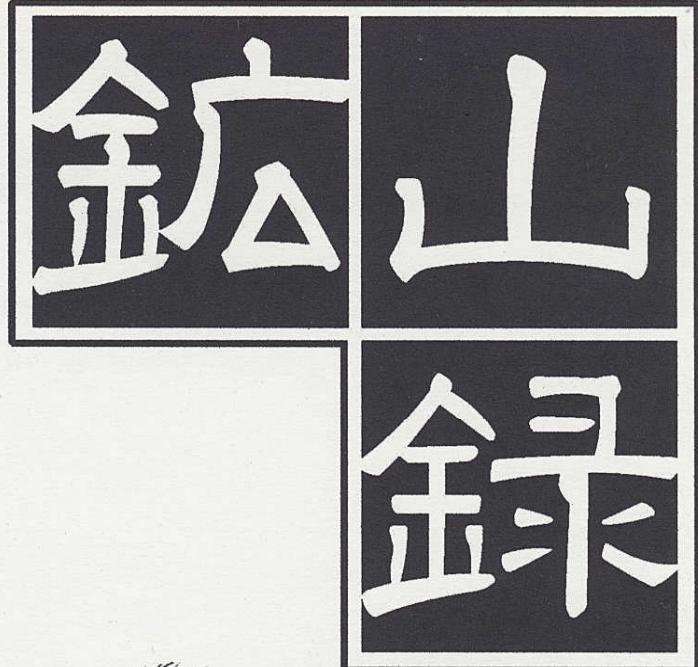


The Correspondence of Noboribetsu City Nature Center

登別市ネイチャーセンター ふおれすと鉱山
ニュースレター



はなかじか
Illustrated by Hiyama T.

Contents

Vol. 2
Sep. 2002

ふおれすと鉱山のもとめるもの②	
ふおれすと鉱山のプログラムつくり2
from STAFF5
オープンから4ヶ月の活動報告6
鉱山町の自然8
リトル・ヴォイス～リレーエッセイ～9
ふおれすと鉱山からのお知らせ10

自然体験プログラムとは…？

ふあれすと鉱山のある鉱山町周辺の素晴らしい自然を、どうみなさまにお伝えするか。伝える方法はいろいろあります。例えば、話で伝える。展示や掲示板、通信誌など、文字で伝える。メディアを使う。今はホームページなんていうものもあります。

しかし、私たちは、やはりみなさまに足を運んでいただき、「直接体験」していただくのが一番ではないか、と考えています。そこで、その素晴らしい自然を「直接体験」するために、より効果的に、よりドラマチックに組み立てたのが「自然体験プログラム」です。

ふあれすと鉱山では、みなさまに鉱山の魅力をより深く知っていただくために、それぞれのニーズに合わせた「オーダーメイドプログラム」にこだわっています。ここでは、そのプログラムがどのように作られているのかをご紹介します。

①旬の自然情報を集める

「ふあれすと鉱山」には、スタッフが調べたり、様々な来訪者の方が持ち寄ってくれた自然情報が集まります。「あそこの山には、いまこんな花が咲いている」「魚道には、いま魚がたくさんいるらしいぞ」…そんな情報をもとに、スタッフが現場に赴き、いろいろな角度から観察して、「プログラムとして使える」ものなどを調査します。このような地道な調査活動を積み重ねることが、ここ「ふあれすと鉱山」でしかできないプログラム作りの大きな地盤となっているのです。



調査に走り回るスタッフたち

②目的・ねらいを決める

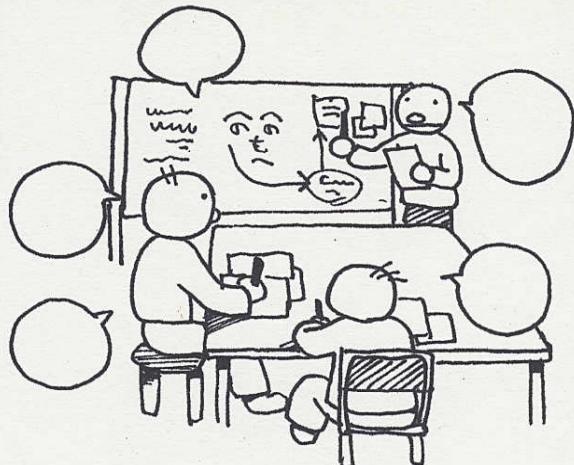
そんな調査を進めているところに、利用される方から「今度『ふあれすと鉱山』にたくさん子ども連れて行きたいんだけど、ん~、何かこう、川の中で遊ばせながら川の大切さなんかに気づかせられるようなことできねえかな」なんていう電話が入ります。ここから、オーダーメイドプログラム作りが始まります。まずは依頼者の思いや願い、時間や人数など様々な条件をお聞きした上で、「じゃあ今回は『川と魚で遊び、学ぶ』というねらいで、プログラムを作ってみますか」という風にプログラムの「目的・ねらい」を明確にします。依頼者の思いによっては、そのねらいが達成されれば、こういう変容が期待できるのでは、といった仮説設定にまで話が及ぶことがあります。



③活動（アクティビティ）を挙げだす

ねらいがはっきりしたら、そのねらいを達成させるために必要な活動（アクティビティ）を考えます。「やっぱり魚を捕まえた方がいいんじゃない」「どうやって？」「ずぶぬれになった方が・・・」「箱めがねで・・網で・・」などと、スタッフ総出で様々な方法を挙げだしていきます。場合によってはモモンガくらぶのみなさんにアドバイスを頂いたり、いろんな本を読みあさったり、いよいよとなれば自分たちで独自の方法を編み出したりと、いろいろと頭を使うところです。

プログラム会議。けんけんがくがくひっちゃんかめっちゃんか。



④条件に合うアクティビティを選び出す

依頼者との打合せで挙げられた様々な条件をもとに、「これはできそうだな」「いや、やっぱり魚は触りたいな」とアクティビティを絞り込んでいきます。

ホントはどれもやりたいんだけどな・・・なんて言いながら、あくまでもねらいを効果的に達成できるものを選び出します。

⑤ドキドキした時間がすごせるよう、効果的にアクティビティを並べる

ここが、一番の勝負どころです。選び出されたアクティビティを、ただ単純に並べるだけでは面白くありませんし、学習効果も上がりません。例えばさっきまでは「濡れたくないよ」なんていってい人が、思わず川に入らないではいられなくなるような、「学びに対する必然性が高まる」、つまりは面白くて、もうやらないではいられない雰囲気を創出する演出が必要です。

そこで、私たちは、



といったような「流れ」を重要視してアクティビティを並べます。なんだかんだ言って、これ以上シンプルな、そして難しい流れはない、と思っています。特に「導入」では、いかに参加者にプログラムに対する興味を起こさせるか、そして「起承転結」の中では「転」でいかにドラマを生み出すことができるか、そこに様々な演出を施します。いやあ、ホントに難しいんです。

⑥流れを良くするためのセリフや道具をそろえる

いくら面白い流れが完成しても、その流れを妨げるものはあらかじめ取り除いておく必要があります。ほんの小さな準備不足が、プログラムの大きな流れを壊してしまうことがあるからです。プログラム中、必要な小道具が適切なタイミングでスッと出せるとか、濡れて帰ってきた時にスムーズに着替えられる、などといった物品の手配・準備から、参加者のどのあたりに立って、どんな表情でどんな言葉を使うのか、といったセリフの一つ一つまで、実に細かいところにまでイメージを作り上げていきます。「細部に神が宿る」という言葉があるとおり、些細なところにまで気配りをして、プログラムの完成です。



準備に走り回るスタッフ。良く食べて体調を整えることも準備のひとつ?



雨降り鉱山…今日もか。

場合によっては、ここまで細かくやっている、というわけでもありませんし、逆に、もっと細かいところまで神経を尖らせながら作ることもあります。あと、せっかく作っても、雨が降ってできなかったり(実際の話、ここ鉱山町は、ほとんどが雨です)、物理的な条件が揃わなかったりして、なかなか思うように実施できないこともあります。

しかし、そんなアクシデントやハプニングも、あえて前向きに受け止められるような懐の深いプログラムが提供できるよう、日々試行錯誤を繰り返しているところです。

学校向けプログラミングって、特別なの?

「ふおれすと鉱山」は、登別市内にある小中学校の授業でも様々な形で利用されています。その授業に対しても、私たちは上記のようなプロセスを経て、プログラム作成と提供をさせて頂いております。

その学校・その学年の教育課程(カリキュラム)の一端を担うわけですから、慎重に打合せを重ね、担任の先生方の思い・願いだけに限らず、子どもたちの興味・関心やクラスの様子、果ては先生方の授業風景まで推し量りながら、まさに先生方との「コラボレーション」を通してプログラムを組み立てていきます。「インフォーマルな教育施設」として、学校の中では、あるいは学校のシステムではできないような内容や方法を充分に取り入れながら、それでいて学校としての授業を成立させる、そんな新しい教育システムができたらいいなあ、と思っています。

上田(Program Director)

ふあれすと鉱山の ゆかいなスタッフたち

今更になってしまったけれども、
ふあれすと鉱山のスタッフを紹介します。
こんなキャラクターたちが皆さんをおもてなししています。



上田 融
うえだとおる

プログラムを担当する遊びの天才。右脳から繰り出されるアクティビティデザインは、とっぴだが細部までこだわった職人芸。特に川や水を使ったプログラムには子どもたちからの評判が抜群。趣味はマンガの立ち読みとアイスホッケー。愛称は「うえだんなん」



檜山 知弘
ひやまとひろ

ハカセ的な物知りキャラクター。カバーするジャンルは動植物から地質、天文、映画、音楽まで幅広い。が、ただのオタクとのうわさもある。子どもたちは「モモンガ博士」と呼ばれている。ローテクからハイテクまでを駆使して活躍するエンジニアでもある。

遠藤 潤
えんどう めぐみ



利用者の受付や案内業務を担当する。にこやかな笑顔と対応の良さにファンも多い。また、実年齢よりも若く見られることをストレス解消のねたにしている。野生植物のスペシャリストだが、飲み食いのスペシャリストでもある。愛称は「えんめぐ」。

小川 邦夫
おがわくにお



ネイチャーセンターの管理だけでなく、職員の管理もまかされている、施設すべてのマネージャー。他のスタッフのやんちゃぶりに胃に穴が空く思いをすることもしばしば。この施設と馬のことなら何でも知っているが、実は自然はあまり好きではない。

水路

「ふあれすと鉱山」の外側に一本の水路が通っています。この水路は、黄鉱山の精錬所が発電を行うため胆振幌別川の上流から引いたもので、「ふあれすと鉱山」のグラウンドを大きく迂回し、

そこにはヤマベニジマスが生息しています。この水路は、黄鉱山の精錬所が発電を行うため胆振幌別川の上流から引いたもので、「ふあれすと鉱山」のグラウンドを大きく迂回し、

力には感心させられます。

鉱山案内
小川邦夫的

また元の川に戻ります。水路を流れます。水は川に戻る時、滝のように落下さい。その力で水力発電のタービンを回し発電をしていました。水路の中から取水して今は、この水路の途中から取水して「ふあれすと鉱山」の飲料水や、養魚池（サケの稚魚を養殖）の水として使用しています。水路は明治時代に造られましたが、石造りの途中水量を調整する新しい堰を作りましたが、石造りの自然低下水路は今なお使用に耐えられる素晴らしい施設で昔の人の技術には感心させられます。

ふれすと鉱山120日

7月は、夏休み前の小学校の宿泊学習がピーク。私たちもとことん朝から晩まで練りに練ったプログラムでお出迎えです。…でも疲れた。

7月

26～28日…ジュニアチャレンジキャンプ

市内の子どもたちを集めてアドベンチャー。自分たちで食材を探してご飯を食べたり、沢を登って滝つぼで泳いだり。珍しく晴天続きの鉱山町で、夏休みのやんちゃっ子をたくさん育てたキャンプでした。



8月

8月はお盆の時期。登別市内、市外から多くのお客様が遊びに来てくれました。が、残念なことに天気の悪い日々が続いたため、部屋の中でクラフト三昧でした。



18日…魚の楽しみ方講習会

「幌別川にはどんな魚が住んでいるのかな?」魚類の研究者、桑原さんを講師に招いて楽しく魚の種類や生態を勉強したり、どうしたら魚の豊かな幌別川ができるのかなどを話したり、楽しく勉強したひとときでした。

7月
8月の
すべての
活動状況

7月			8月		
1～2	特殊教育振興協議会	素敵な石を見つけて、それを飾る箱を作りました。	4～5	登別温泉小4年生学級レク	MTBにのって冒険をしました。水晶探しも楽しみました。
2	青葉小3年生	川で拾った石でクラフトを行いました。	6	胆振教育研究所	自然体験活動を通して、環境教育について学びました。
3～4	幌別西小5年生宿泊学習	鉱山を冒険したり、夜の森を歩いたりしました。	9	ひまわりクラブ	石を磨いたり、ネイチャークラフトを行ないました。
4～5	青葉小5年生宿泊学習	鉱山の森と青葉の森の違いを探しに行きました。	13～15	お盆イベント	バードコールを作ったり、クワガタ探しに出かけました。
6	キッズサミット	登別の子どもたちが集まり、幌別川について学びました。	16～17	登別野球少年団	MTBで森に出かけたり、川の中に入ったりして宝物を見つけてきました。
6～7	若草子ども育成協議会	森の材料でクラフトを行いました。	27～28	萬別小5年生宿泊学習	鉱山をハードに冒険し、みんなの力でクライミングウォールを登りました。
9～10	特殊教育振興協議会	森の材料を使って、自分がだけの写真だけを作りました。	29	萬別小3年生総合学習	川遊びをしながら、宝物を見つける目を養いました。
11	若草小3年生	きれいな石を探して、河原で遊びました。	31	登別市PTA連合会	親子で石や小枝を使ったクラフトを行ないました。
16	御前水中炊事遠足	みんなで団結して、ゲームをやりました。			
18～19	登別小5年生宿泊学習	目からうろこがとれるような体験をしました。			
19～20	青葉小6年生学級レク	レンジャー体験として鉱山町の自然を管理しました。			
21～22	つばさの会	鉱山地区的森をゆっくりと散策しました。			
23～24	幌別東小5年生宿泊学習	滝まで歩いていったり、夜のかくれんぼを楽しみました。			
25～26	登別温泉小5年生宿泊学習	川に水晶を探しに行きました。			
30～8/1	わかすぎ学園	森で材料を集めてクラフト作りをしました。			

オープンから4ヶ月の活動報告②

こんなオーダー・こんななかたち。 宿泊学習プログラム

プログラムのオーダーを受けるにあたり、学校側が提示する要望は様々です。それに対して私達は一つ一つ綿密な打ち合わせを繰り返してプログラムを組み立てて行きます。ここでは、そんな学校対応プログラムをご紹介します。

登別市立幌別西小学校5年生（62名）

タイトル 「鉢山町大冒険」

ねらい 「自然にとっぴりとつかり、 鉢山町でしかできない自然体験を存分にやる」

降りしきる雨の中、5グループに分かれて沢登り、MTB、ライフジャケットを使ってのフローティングなど、かなりハードな冒険をしました。「危険を克服してこそ、人は成長するのだ」というスタッフの言葉を信じて、全員無事に目標達成！



登別市立幌別東小学校5年生（29名）

事前授業として、教室に入り「あんなことやこんなことができるよ」といったスタッフのプレゼンを受け、子どもたちで計画を立てました。「写真教室」「三段の滝を見に行く」など、様々な定番プログラムを体験しましたが、特に「夜のかくれんぼ」では、先生方も含めた「大人VS. 子ども」の大決戦が繰り広げられました。

登別市立青葉小学校5年生（36名）

タイトル 「青葉の森にないもの探し」

ねらい 「自分の住んでいる地域と比較しながら鉢山町特有の自然環境に気づく」

「さすがにこんなものはないでしょ。」と暗い倉庫の中で見せつけられた金色に輝く鉱石。一気にみんなの目がトレジャーハンターと化し、そのまま岩ヶ崎坑へ出発。そのほかにも、川遊びや夜の森探検、ウォークラリーなどを通じて「青葉の森」にないものを探しました。

登別市立蟹別小学校5年生（62名）

タイトル 「自分を見つめるキャンプ」

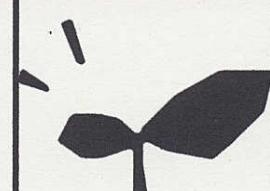
ねらい 「ハードな自然体験を共有することで、他人や自分への思いを深める」

「みんな、手はなすぞ」「おー、いいぞ」クライミングボードのてっぺんにぶら下がっているナベを叩いた後は、ロープを全員に握ってもらい、手放しでゆっくり下降してもらいます。そんな体験の後は、その中で生まれたドラマに着目し、みんなの考え方や自分の気持ちをふり返りました。

登別市立登別小学校5年生（47名） タイトル「目からウロコキャンプ」

ねらい 「今まで気がつかなかった自然の調べ方や楽しみ方を体験する」

「ええ～、こんなに魚が見えちゃっていいの？」子どもたちよりも先生の方が驚いてしまった「夜の魚観察」。そのほかにも「森の年齢を調べよう」「摩擦を信じよう」など、ちょっと考え方を変えるだけで気づかなかった自然の姿がみられる、まさに「目からウロコ」体験をたくさんすることができました。



登別市立幌別小学校5年生（59名）

「幌別川を体験しよう」

ねらい 「自分の町を流れる川について気づき理解を深める」

とにかく水没しの2日間。「幌別川には何がある？」という問い合わせから始まり、川遊び、魚探し、夜の魚道、魚のスライドショー、川の力体験など、「川」に対して実際に様々な角度からアプローチしました。みんなが帰る頃には指の間から水かきが生えてきました。（？）

このように、学校によってねらいは様々。一つ一つのねらいに対してていねいに練り上げて作ってゆくプログラムは、まさにその時のためだけのオーダーメイドです。それによってもたらされる効果も千差万別。私達は、子どもたちにとっての一期一会になるような、そんなプログラムを作り続けます。

鉱山町を歩く

再生する自然②

鉱山町に流れている川を見たことがありますか？幌別川と呼ばれるこの川にはびっくりするほどきれいな水が流れています。見とれるほど透き通った水が流れています。一目見ると豊かな川なのだろうな。と思いますが、この川はかつて、死の川となった歴史がありました。

鉱山が栄えた頃、町の精錬所からこの幌別川に鉛毒が流されました。それまで豊かだった川の魚たちは、ほとんどが死滅したといいます。鉛毒が流されなくなって、魚たちが戻ってきて河川環境の悪化は続きます。ダム、砂防ダムの設置は川を分断し、魚たちが好きな場所で卵を産めなくなりました。そんなことから魚の少なくなった幌別川を今でも「死の川」と呼ぶ人は多いのです。

最近、面白い話を聞きました。鉛毒が流されても、ダムができる、シベリアヤツメなどある種の魚たちは死滅をまぬがれ、自然繁殖したというのです。それだけでも命のタフさや素晴らしさを感じられるのですが、今では幌別川を蘇らせようとして多くの人々が活動するようになりました。いなくなった種類の魚を放し、分断された川に魚道を作り魚が行き来できるようにしたり。川を壊してしまうのも人間たち

ですが、それを悲しみ、どうにかしようと思うのも人間たちです。幌別川は今、人間たちの手で再生されようとしています。「他の川から持ってきた魚を放してよいのか」「キャッチアンドリリースは偽善だ」色々な意見や論議があります。でも、同じ願いのは、生き物たちの豊かな幌別川にもどってほしいということなのです。

檜山知弘(art director)



形で勝負!! 花はキレイなだけじゃない!

えんどうめぐみの 森のひみつシリーズ②

鉱山の森を歩いていると、紫色のへんてこな形の花が目に付きます。その花の形は、筒状で花の入り口から奥に向かってだんだん細くなっています。しっぽの方がくるりと巻いていて、しかもぶらりんとぶら下がっている。この花は、なぜこのような形なのでしょうか？

その花の名は、ツリフネソウ。もちろん、このような形になったのには、ちゃんと意味があります。植物にとって（もちろん動物にとっても）一番大切なことは、自分の子孫を残すこと。のために彼らは、花という器官に独自の想いを捧げてきました。花には、ほかの花と花粉をやりとりし、その結果「種子をつくる」という重要な役目があります。ところが、植物は簡単に移動できないのでその花粉のやりとりを昆虫に託すものがでてきました。ツリフネソウは、マルハナバチなどの昆虫に花粉を託すやり方で進化してきた植物です。昆虫が着地しやすいようになびらを出っ張らせ、花の一一番奥のくるりとまいた部分に高カロリーの蜜を秘め、昆虫を誘いますが、ひとたび蜜を求めて花にもぐりこもうものなら、入り口の上部に突き出たおしゃべに背中をこすりけないと蜜までたどり着けない。蜜を提供するかわりに花粉を運んでもらう。そのためには花を特殊な形にしてきた。これが、ツリフネソウがへんてこな形の花をつける理由です。つまり、花の形は、ツリフネソウが生き残るために長い間をかけて作り出した戦略のひとつなのです。

花はきれいなだけじゃない。ひとつの花にもドラマが存在しています。「この花には、植物のどんな想いが託されているのかしら？」そんな見方で花と向き合ってみませんか。



写真は
キツリフネ

ツリフネソウの図

リレーエッセイ Roots and Shoots リトル・ヴォイス

インフォーマルな教育ということ

宮本 英樹

「網で魚をゲットしたい。」そんなことを言い出した甥のコースケを、僕が信頼しているインタープリター（自然案内をしている人）にあずけて、ちょっと様子を見ていた。彼はまず、コースケ自身にとらせはじめた。とれない。コースケが飽きてきたところを見計らって自分がやりだした。いとも簡単にすくいあげる。

「悔しいだろう。」「うん。」もう一度やらせる。「いいか、網を下に置いて、箱めがねで見ながら、魚が来るのをじっと待って、来たらあわてず、上にあげるんだぞ。」今度は少しだけコツを教えた。後はほったらかし。彼は僕と話をしている。だからといって、完全に目を離しているわけではない。横目では、チラチラと視線を送っている。

コースケに良い緊張感と集中が感じられる。僕らも話に夢中になってきたころ、「ゲット!!」の声が深い森に響いた。小さなタモの中に小さなオショロコマが宝石のように輝いていた。

「スゲー、プロ級じゃん。」彼は僕との話を突然断ち切り、いつのまにかコースケの横に駆け寄っていた。飛び切りのほめ言葉を用意して。したり顔のコースケに僕は苦笑いする。「あのあたりの溜まりにもっと大物がいるかも。」必要以上のことは言わない。が、コースケの興味は確実に持続している。こんなに集中して何かをする甥をはじめて見た。

「もう帰ろうよ。」こちらが根負けしてしまった。その間にコースケは、オショロコマを10匹も取った。「ところでおじちゃん、この魚はなんていうの？」

彼は別にインフォーマルな教育なんてことを意識したつもりはないだろう。しかし、実に理にかなった教え方だと思う。一流の人は本質を理解しているんだなど、彼のことをもう一度見直した。子どもたちの興味を刺激し、彼らの興味が続く限り自由に学習を続けさせる。全員が同じ達成目標を持たなくてもいい。全員に同じ効果がもたらされなくてもいい。そんな学習拠点を作りたい。そんな学習をサポートできるようにヒトと情報とものを徹底的に用意しておければ素敵だなあ。



今、もっとも注目を集め
る新進気鋭のコーディ
ネーター、プランナー、教
育者。ふおれすと鉱山を
はじめ、各地の施設の
ハード、ソフトのデザイ
ンを手がける。時代をクリ
エイトする彼の視線は
北海道を基点にしながら
も、すでに世界に向か
れている。

ふおれすと鉱山コー
ディネーター、NPO法人
ねおす理事。



ピックオーとの出会い
シルヴァスタイン

オススメ BOOKS from STAFF

知る人ぞ知る「ぼくを探しに」に続くシェル・シルヴァスタインの絵本です。絵はとっても素朴ですが、「かけら」たちの何気ない表情が心に語りかけ、短い言葉となにも書かれていらない空間が心に響きます。

私にとってこの本との出会いは強烈であり、人生に迷った旅の空の下、会うべくして会った一冊でした。私が出会ったのは、洋書バージョン「The Missing Piece Meets the Big O」でしたが、英単語が分からなくても、いいや、分からぬからこそ楽しめる逸品でした。自分がうけとめたことを日本語にじゃまされないとこがまた、いい。

たまに懐かしいような、切ないような特別な夜がやってくることがあります。秋の夜風に吹かれながら絵本と出会う、そんなひとときはいかがですか。(M)

EVENT INFORMATIONS

子ども自然教室②

幌別川と魚たち

一日魚と遊んじゃおう!

見たり触ったり、食べちゃったり!?

日時:10月19日(土) 10時集合

対象:小学校4年~6年生 定員:20名

(定員になり次第締め切り)

参加費:500円(昼食材料費として)

持ち物:水筒、雨具、着替え、ぬれてもいい服、
ぬれてもいい靴

フィールドワーク in 鉱山町②

紅葉の鉱山

鉱山町ではどんな木がどんな色に染まるので
しょう。森を歩きながら、森の恵みを味わいな
がら、過ぎ行く季節を楽しみましょう。

日時:10月20日(日) 10時~13時

対象:鉱山町の自然に興味のある方・これから自然体
験をはじめてみたいと思っている方

定員:20名(定員になり次第締め切り) 費用:無料

持ち物:歩きやすい服装と靴、雨具

指導者ステップアップ講習③

鉱石の見つけ方

とても身近な自然観察素材である石。石をどんなふうに観察した
らいいのか、どんな石が面白いのかを楽しく勉強してみましょう。
今回の講師は北海道環境カウンセラー協会の藤田郁男さんです。

日時:10月13日(日曜日) 対象:登別市および周辺の教育に

携わる方、自然・環境・教育に興味のある方

定員:20名(定員になり次第締め切り) 費用:無料

持ち物:歩きやすい靴、汚れても良い服装、筆記用具など

イベントのお問い合わせ・お申し込みは

「ふおれすと鉱山」 Tel0143-85-2569 Fax0143-81-5808 まで

指導者ステップアップ講習③

クラフト講習会

ネイチャークラフト作家の長
野修平さんを講師に、自然の
素材を使って椅子などのクラ
フトを作ります。

日時:11月1日~11月3日

(二泊三日)予定(変更あり)

詳細は未定です。お問い合わせ
ください。

ふおれすと鉱山利用のご案内

開館:9:00~17:30分 入場料:無料

休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、翌日が休館となります)

工作室・図書室は自由に使っていただけます。そのほかに双眼鏡、マ
ウンテンバイク、調理台などをご利用いただけます。



EDITOR'S LOUNGE

…雨だ。果てしなく雨だ。鉱山町は雨が多いと聞いていたけど、これほどとは。と思っていたら北海道中そうだったみたいですね。前号で「夏は夜」なんて書きました。その終節は「雨などふるもまたおかし。」…全然おかしかないやい。なんて思う今日この頃でした。秋は晴れるかな。

おくづけ

登別市ネイチャーセンター通信誌「鉱山録」 vol.2

発行:2002年9月

発行所:〒059-0021 北海道登別市鉱山町8-3

電話番号:0143-85-2569 FAX:0143-81-5808

E-Mail:kouzan@pluto.plala.or.jp

URL:www.city.noboribetsu.hokkaido.jp/forest/index.htm